

生活福祉資金貸付制度のご案内

支援を受けることにより自立した生活ができると認められる低所得世帯、障害者、高齢者の属する世帯を対象に、資金貸付の相談を行っています。本貸付制度は資金種類ごとに要件・条件があります。詳細については、本部(TEL:85-7024)へお問い合わせください。



また、現在、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、休業や失業等により生活資金でお悩みの世帯に向けた、緊急小口資金等の特例貸付を実施しております。特例貸付の詳細は、本会ウェブサイトに掲載していますので、そちらをご覧ください。

※貸付には審査があります。希望するすべての方にお貸しできるものではありません。

138sk

検索



車いす使用の職員発信

車いすと いっしょに

第15回「体験を通して感じる、介助者の配慮」

緊急事態宣言の解除以降、感染対策をし、福祉実践教室で市内の小中学校を訪問する機会が戻りつつあります。福祉実践教室は、障害当事者への思いやりに気付く機会であるとともに、介助者がどのように当事者と接するかを知る機会でもあります。車いす体験では体育マットを段差に、三角コーンを人に見立てて、車いすの乗り心地や介助の基本動作を体験してもらいます。マットから前輪が落ちたときは、車いすをあまり大きく動かさずに、落ちた前輪だけをやさしく戻します。段差を乗り降りする前には声をかけ、車いすを押すときはゆっくりと進む。大切なのは、こうした小さな心配りです。実生活では、道路の凹凸による振動や周りの人との距離など配慮する点も多く、また「ゆっくり」や「やさしく」といった感覚に個人差はありますが、日ごろ私がお世話になっている方にどれほど気を配っていただいているかを、福祉実践教室を通じてあらためて感じます。(小鹿)



障害者スポーツの紹介

「ブラインドサッカー」

ブラインドサッカーは、ゴールキーパー以外の選手がアイマスクをつけてプレーするのが大きな特徴です。以前紹介した卓球(サウンドテーブルテニス)と同様、音の鳴る玉が入ったボールを使用します。ボールが外に出ないようにピッチの左右にフェンスが設けられるほか、選手はヘッドギアをつける決まりになっています。選手同士の連携を支えるのが「コーラー」です。コーラーには、(こどもボランティアスクールで体験した様子)選手とボールの位置関係やシュートのタイミングなどを、声で伝える大切な役割があります。また、ボールを持っている選手に近づくとかけ声を発するのがルールで、これを怠ると反則を取られます。選手が入り乱れるからこそ、さまざまな点で安全に配慮されている競技です。

